

- pers in Met. and Geophys., Vol. 3, No. 3, p. 175~182.
- 2) 鎌本博夫, 1954; 総合気候観測施設について, 測候時報, 21巻4号, p. 91~94.
 - 3) 中央気象台観測部, 1953; 総合気候観測装置(52型)取扱指針, 全40頁.
 - 4) 気象測器工場, 1955; 総合気候観測装置(55型)取扱説明書, 全38頁.
 - 5) 中央気象台気象測器工場, 1956; 総合気候観測装置(55B型)取扱説明書, 全45頁.
 - 6) 気象測器工場, 1952; 自動気候観測施設について, 測候時報, 19巻15号, p. 348~351.
 - 7) H. Kamamoto and his Collaborators (1956): Automatic Climatological Station, Geoph. Mag., Vol. 27, No. 4, p. 565~578.
 - 8) 気象測器製作所, 1956; 南極観測用長期自記気象計取扱説明書, 南極資料134, 全13頁.
 - 9) 佐貫亦男, 1957; 南極の自動測候所, 計測, 7巻2号, p. 72~76.
 - 10) 気象庁気象測器製作所, 1956; 小気候観測測器, 測器要報, 第1輯, p. 28~31.
 - 11) 中央気象台, 1955; 微気圧観測暫定指針, 全36頁.
 - 12) 鈴木清太郎, 1953; 微分気圧計, 研究時報, 5巻, p. 19~30.
 - 13) 矢島幸雄, 1956; 微分気圧計および微分温度計の応答について, 研究時報, 8巻1号, p. 38~42.
 - 14) 気象庁観測部, 1957; 異常微気圧振動記象の読取方法について, 全23頁.
 - 15) S. Agari, 1951; A Remote Reading and Recording Mercury Thermometer with Sealed Carbon Filament, Papers in Met. and Geophys., Vol. 2. No. 3~4, p. 334~338.
 - 16) T. Tsukamoto, S. Tsuneoka and K. Takahashi, 1951; A New Remote Rain Gauge and Its Tests on Odaigahara-San, Papers in Met. and Geoph., Vol. 2. No. 2, p. 191~195.
 - 17) 矢島幸雄, 1956; レーダー取扱の実際, オーム社, 全187頁.

【雲鏡】

予報当番メモより

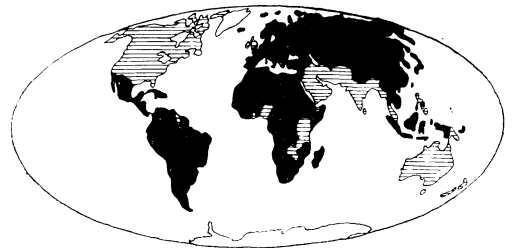
大塚龍蔵

予報当番メモをひっくり返してみると、予報のむずかしさ、気象現象の複雑さがよくわかる。現在の気象学の原理に基づいた予報則を適用してもはずれることがあるし、経験則によってむずかしい天気当てる場合もある。気象学の教科書は数多く出されているが、予報の教科書は殆んどないといってよい。気候学上、調査上有益な気候表はあっても、日常予報業務にたずさわっている予報当番者にとって、真に役立つ予報用動気候表といったものは少ない。又、このような表や本をまとめるには現場の予報者はあまり忙しく、時間的には交替勤務にしばらく、日々の予報作業にかなりの神経をすりへらしている。現実の天気予報は1プラス1イコール2と割り切っただけのものでなく同一の気圧配置（ある一定時間、一定空間の一断面にすぎない）が、必ずしも同一の天気をもたらすものでない。前後3~6時間で天気の急変することもあるのである。道義的責任を感じつつ絶えず予報を出さなければならない予報者の苦心や多くの practical technique を知らずに結果のあたりはずれを研究者的な立場から論じられるものは、少くとも現状では予報者よりめぐまれた立場にあるようだ。研究部門と技術部門の交流、その間隙をうめる調査、体系の確立が望まれる。飛行機観測、レーダー、電子計算機（数値予報）の有効性は、実際の天気と翻訳する予報技術の発展によって実証されるのではあるまいか。（33.1.21）

気圧と気温の単位

気象観測の方法が国によってちがう、時代によってちがうのはなほ不便である。とはいえ、気象観測も進歩するものである以上、時代によってちがうという事実は進歩しているということを示すシンボルであるともいえる。が、国によってちがうのは、ほとんど政治的制約によるものであるから、なんとか話し合おうとやってみてほしいものである。

下の図に示したのは気圧と気温を観測する際に使用する単位の分布図である。いわば<気象観測に関する政治地理学の第1頁>。



黒く塗りつぶしてある部分は、温度を摂氏で測り、気圧をミリバールで測っている地域、平行線を引いてある部分は、温度を華氏ではかり、気圧にインチを使っている地域である。この図をみながら、新聞ニュースをよむのも又興味なしとしない。なお、この図には南極までは区別されていないことに注意ありたし。（TW）